令和７年度　東温市地域自立支援協議会 専門部会説明資料

子ども部会

子ども部会は障がいのある子どもやその家族への支援をより良くするため、医療、福祉、教育などの関係機関が集まる協議の場である。情報共有や連携を強化し、地域の課題解決に取り組み、途切れることのない一貫した支援体制を築き、子どもたちの健やかな成長を地域全体で支えることを目的としている。

＜令和７年度の方針＞

・保護者へ研修を行うことにより、情報発信の場を確保し、同じ悩みを抱える保護者同士がつながれる場を設ける。
・障がい児や家族が抱える地域の課題をあげ、問題提起して部会にて事例検討会で話し合い解決に向けて共に考えていく。
・地域課題提出シートが提出された際には、必要に応じて部会を開催し協議していく。

（部会）

○第１回（令和７年７月３日（木）９時３０分～１１時００分）

令和６年度の活動報告に加え、今年度より「地域課題提出シート」を取り入れることについて説明した。また令和７年度の活動については、多岐にわたる課題や提案が寄せられた。主な内容は以下のとおりである。

・３歳児健診後の発達に関する保護者の不安な気持ちを話せる場や仕組み作りができたらと思う。
・児童クラブと放課後等デイサービスの併用による費用負担の課題があり、送迎のある放課後等デイのみの利用になっている。
・学年が大きくなると性教育の必要性が出てくる。
・社協がすでに取り組んでいるペアレントプログラム・ペアレントトレーニング講座等を保護者だけではなく、園や学校の先生へ普及促進していけたらいいのではないか。
・高等部に入っても留守番を一人ですることが難しい子がいる。保護者不在でヘルパーの利用もできず、ショートステイの施設や日数が限られて、まかなえる社会資源がないことが課題である。
・診断名がつかずグレーゾーンと言われ、本人の対応に保護者は困っている。講演の機会や相談の場が重要である。
・高校卒業後の生活、特に放課後等デイサービス利用終了に伴う不安が強いように思う。
・児童通所サービスでは意見書がいるが、どこに意見書を求めるべきか悩んでいる。
・市内に中高生向けの文化系サークルの創設による新たな居場所を作りたい。

○第２回（令和７年７月２４日（木）９時３０分～１１時００分）

「子どもたちの新たな居場所作り」をテーマに意見交換を行った。

不登校児の増加や、障がい、発達に困りごとのある中高生の留守番の難しさ、市内の居場所不足が課題として提起され、文化系サークルの創設が提案された。

既存の居場所（放課後等デイサービス、教育支援教室ひだまり、地域活動支援センターおかけや、子ども館）の現状と課題が共有された。意見としては次のとおりである。

・放課後等デイサービスは不登校児対応している。その日の気分で利用が決まるため継続して利用できない時もある。収益や定員の問題から、他の居場所が求められている。
・教育支援教室ひだまりは学校復帰を目的とした居場所だが、すべての不登校児に対応できるわけではない。また、長期休業中は休止となるため、その間の居場所の確保が課題である。
・地域活動支援センターおかけやは元々大人向けの施設だったが、今は週３回のうち週２回「こかけや（子どもも対象）」として活動できるようになっている。
・子ども館には、学校には行きづらいが小さい頃から行き慣れている場所として利用できる子がいる。ただ、遊び場なので出席扱いにはならないものの、小学校との連携はできている。今後は中学校との連携強化が望まれている。
・協議の結果、ボランティアによる文化系サークル設立への期待が大きく、まずは特別支援学校から開始し、将来的には他の学校にも広げる方向性が示された。後々は、就労後の利用や土・日も活用できる場の必要性、保護者の協力、そして保護者も含めた支援の重要性が確認された。共通の興味を持つ仲間を作ることで、子どもたちが前進するきっかけとなる可能性が指摘された。
・また、「障害児通所支援サービス利用基準の適正化と地域資源活用のあり方」について、地域課題提出シートが事務局に提出され、意見交換を行った。必要な子どもに必要な支援が公平に届くことの重要性が確認された。一方、提出シートの記載方法については、１枚に数件のケースが集約されており、個別ケースごとの提出を促すよう指摘があった。

○<u>第３回</u>（令和８年３月５日（木）１３時３０分～１４時３０分）

今年度の活動報告と来年度の活動について協議される予定である。

（小部会（保護者部会））

特別支援学校や特別支援学級に通う子どもの保護者及び発達に不安な子どもをもつ保護者が対象

○<u>第１回</u>（令和７年８月７日（木）１４時００分～１６時００分）

「第２回医療的ケア児保護者交流会座談会」として「避難所運営のプレ体験」を実施した。場所は医療的ケア児の福祉避難所である老人福祉センター１階和室でベッドやテント等を市役所職員が設置して行った。保護者、中野東温市医師会長、井上副会長等をはじめ、総勢３５名が参加した。福祉避難所の開設・避難の流れを学び、防災倉庫を見学し発電機の稼働も体験した。

また愛媛大学附属病院（生協病院）水本真奈美医師の論文が紹介され、医療的ケア児を持つ家庭の約５０％が備え不十分で、約２５％が避難しないことを選択している現状が伝えられた。また避難生活への不安や医療従事者とのコミュニケーション不足、停電への備えが不十分であること等も判明し、災害時の医療的ケア児の権利を守る必要性が強調された。また防災士田中輝和氏によ

る「能登半島地震の避難所での様子について、避難所運営ゲーム、まち歩き体験談」と題し講演も行われた。

意見交換会では県医師会・小児科医会の「災害時対応ノート・災害時対応マニュアル」に沿って、活発な意見が交わされた。最後に参加された保護者より「今回の参加で多くの方が考えて準備してくださっていることが分かり、とてもありがたかった。将来的には避難訓練も実施できれば嬉しい」「家庭での災害準備が不十分だと感じたため、今後は備えていきたい」といった感想が寄せられた。これらの意見を受け、次年度も同様の会を開催する運びとなった。

○第２回（令和７年１０月１６日（木）１０時００分～１２：００分）

愛媛大学大学院医学系研究科准教授の河邉憲太郎氏を講師に招き、保護者向けの「発達障がいの疑いグレーゾーンと言われたら～子育ての仕方について学ぼう～」と題した講演会・茶話会が開催される予定である。

○第３回（令和７年１２月３日（水）１０時００分～１２時００分）

特定非営利活動法人ぷちすてっぷ理事長の安原優子氏を講師に招き、保護者向けの「性教育について」の講演会・茶話会が開催される予定である。

〈子ども部会から提案・全体会に助言を求めたいこと等〉

１　教育支援教室ひだまりの長期休業中の利用について

長期休業中にひだまりが休止となるため、安心できる居場所がない子どもがいます。長期休暇中の利用について御検討をお願いします。

２　障害児通所支援サービスの利用基準・判断フローの明確化

園や学校の現場で、誰もが迷わずに判断できるよう、利用基準や判断フローを具体化するための方法について御意見をいただきたく存じます。

３　子どもたちの居場所関係者間の情報共有と連携強化の仕組みづくり

既存の居場所の関係者が定期的に集まり、活動を情報共有し、連携を図るための具体的な仕組みについて御教示ください。

成人部会

成人された障がいのある方の地域における支援体制や社会資源等に関する地域課題の抽出を個別の事例を積み重ねて抽出し、成人部会内で把握、共有し、全体会へ報告や地域課題に対する提案をする。

＜令和７年度の方針＞

就労ガイドブック更新方法、地域課題検討シートの活用による地域課題の抽出

（部会）

○第１回（令和７年７月２４日（木）１０：００～１１；１０）

東温市総合保健福祉センター　２階会議室１、２

協議内容

①令和６年度活動報告

就労ガイドブック発行、配布に関して報告

②地域課題検討シートの活用に関して

個別の課題から地域の課題として捉えるツールとして地域課題検討シートの活用に関して意見を求め、承認が得られたので実際にシートを活用し、部会員から意見をいただく。

○第２回　小部会開催以降に予定

（小部会）

（就労部会・暮らしを支える部会）について

令和７年度　第１回開催予定（秋頃）

（部会員は市内の就労継続支援事業所Ａ型、Ｂ型、訪問介護事業所の管理者や責任者）

＜地域課題検討シートより抽出された課題の報告＞

・本人の障がい特性に応じた又は特化したグループホームや施設がない。

・同じような立場の介護者が集まるコミュニティがない。

・障がいサービス等の情報が届いてない人、知らない人かつ受け身な人はサービスにつながらない。

↓

障がい者の支援を家庭内だけで解決しようとしている。

相談支援部会

1　部会の位置づけ

相談支援部会は、相談支援専門員が日常の支援を通じて見出した地域課題や制度運用上の課題について意見交換を行い、地域の実情を反映した支援体制の在り方を協議する場である。各事業所の実践共有や制度動向に関する情報交換を通じ、相談支援の質向上と地域課題の整理・提案を目的とする。

2　今年度の方針

部会員の意見により、その時々の必要なテーマや話題に柔軟に対応するために取り組む内容はあらかじめ固定しないこととした。年間を通じて部会員の意見や地域の状況に応じた内容を随時取り上げていく方針としている。

3　開催内容

○**第１回**（令和７年４月９日（水）９：３０～１１：００）

場所：東温市総合保健福祉センター　２階会議室

(1) 部会長・副部会長選出

・部会長：吉良美奈子 氏（相談支援事業所さくら）

・副部会長：木村恵子 氏（東温市社会福祉協議会）

(2) 研修「計画の立て方」（講師：ケアサポートまつやま 山口秀人 氏）

・相談支援専門員が増えたことと、スキルアップのために企画

・相談支援の基本視点の変化と「ゴール中心型」支援の重要性について再確認した。

・サービス等利用計画における視点の拡張（「誰目線」での記述、「サービス等」への着目）

・質疑応答では本人の意向が揺れる場合の対応について意見交換

(3) 事務連絡

・令和７年度スケジュールの変更点を確認

(4) 運営方針の確認

・必要なテーマを柔軟に取り扱う

・事例検討も随時受付可能とする旨を周知

○**第２回**（令和７年６月１１日（火）９：３０～１１：００）

場所：東温市総合保健福祉センター　２階会議室

(1) 事業説明

・ウェルビーチャレンジ松山銀天街センターより『就労移行支援』『自立訓練（生活訓練)』の説明

(2) 勉強会「就労選択支援について」（講師：ウェルビー松山センター 松岡氏）

・令和７年 10 月から開始予定の新制度「就労選択支援」について解説

・利用者が主体的に就労系サービスを選択できる仕組みであり、特別支援学校在学中からの利用も可能

・相談支援専門員は計画相談、関係機関連携、モニタリングや計画見直し等を担うことを確認

(3)その他

・初任者研修の実習受入体制について説明

・「地域課題提出シート」の運用を見直し、年度内に再調整予定

○第３回（令和７年８月６日（水）９：３０～１１：００）
場所：東温市総合保健福祉センター ２階会議室

(1) 地域課題の共有・意見交換
・地域課題検討シートをもとに「ゲーム依存と生活リズムの乱れを抱える不登校児の支援」について事例共有。
・現状は居場所不足により、療育目的ではないのに放課後等デイサービスへとつながってしまうことが課題とされた。
・議論では、未受診児への行き先の乏しさ、発達特性以外の背景要因の見立ての重要性、本人の興味に沿った多様な居場所の必要性、意見書次第で本来療育が必要な児の受給が阻害される懸念などが指摘された。
・今後のしくみの提案として、地域における多様な居場所の整備、既存制度資源の連携強化、放課後等デイサービス利用における課題の整理が挙げられた。

(2) 計画相談支援実施における仕組みの見直し（提案・課題）
・行政手続き上の提案（提出書類の形式や認定調査の見直し、書類の整備による保護者負担の軽減、受給者証記載内容の不備改善 等）
・事業所間の連携課題（個別支援計画の未配布、法律改正への対応の仕組みづくり 等）

(3) その他（情報交換）
・地域資源情報の一覧化に関する再検討の必要性
・自立支援協議会全体会等での事例検討に向けた個人情報の扱いとシート活用方法を確認

＜相談支援部会から全体会に助言を求めたいこと＞

不登校児童への対応について

東温市内でも不登校児童が確認されており、不登校などを背景に、放課後等デイサービスが「預かりの場」として活用されている状況も見られている。今後、情報共有をしながら支援にあたっていくために、障がいの有無を問わず日中安心して過ごせる第３の居場所づくりをはじめ、どのような方法が考えられるかを検討してほしい。

教育だけでなく福祉のかかわりが必要な場合が見られるが、本人の特性や背景を見極め、発達の支援を必要とする児童に支援を確実に届けられるようにするための方法について、広い観点からの意見をいただきたい。